

国立国会図書館月報

-
- 稀本あれこれ-438- Alexandria 1:100,000
 東京本館新装開館後の館内利用サービスガイド ・ 1
 新指定貴重書および準貴重書について
 -第35回貴重書等指定委員会- ・ 5
 和漢書の部 ・ 5
 新聞・雑誌の部 ・ 11
 洋書の部 ・ 15
- 平成16年度国立国会図書館長と都道府県立及び
 政令指定都市立図書館長との懇談会について ・ 16
 特別コレクション「布川文庫」について ・ 18
- <お知らせ>
 電子展示会「インキュナブラー-西洋印刷術の黎明-」を公開
 ・ 19
 館内スコープ ・ 20
 常設展示のお知らせ ・ 20
- <お知らせ>
 レファレンス情報システムモニター機関募集 ・ 21
 東京本館の臨時休館等について ・ 22
 東京本館の新しい開館日・開館時間等について ・ 22
 インターネットによる利用者アンケート調査への
 ご協力をお願い ・ 23
 遠客近客 ・ 23
 本屋にない本 ・ 24
 国立国会図書館の編集・刊行物 ・ 25
 NDL news ・ 26
- <お知らせ>
 「国立国会図書館の編集・刊行物入手案内」について ・ 27
 月例報告 ・ 27
 国際子ども図書館のページ ・ 29
 What's 書誌調整? 第9回 全国書誌は文化の鏡 ・ 30
-

8
2004

No. 521

国立国会図書館利用案内

来館利用案内（自動応答） 電話03（3506）3300（音声サービス）
電話03（3506）3301（FAX サービス）

ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>

利用できる人 満18歳以上の方

資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。

東京本館 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1

電話 03（3581）2331

サービス時間（2004年9月まで）

閲覧：9：30～17：00 即日渡し複写受付：10：00～16：00

資料請求受付：9：30～16：00 後日渡し複写受付：10：00～16：30

音楽・映像資料室は、休館日以外に第1土曜日が休室となります。このほか登録制の一般研究室があり、19：00まで利用できます（土曜日は17：00まで）。視覚に障害がある方のご利用については、利用者サービス企画課にお問い合わせください。

※東京本館では10月から開館日・開館時間を拡大します。詳しくは本誌22頁をご覧ください。

2004年	9月	日	月	火	水	木	金	土	10月	日	月	火	水	木	金	土	
						1	2	3	4							1	2
●	休館日	5	6	7	8	9	10	11		3	4	5	6	7	8	9	
□	資料整理 休館日	12	13	14	15	16	17	18		10	11	12	13	14	15	16	
□	臨時休館日	19	20	21	22	23	24	25		17	18	19	20	21	22	23	
		26	27	28	29	30				24	25	26	27	28	29	30	
										31							

関西館 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3

電話 0774（98）1200（音声サービス）

サービス時間

閲覧：10：00～18：00 即日渡し複写受付：10：00～17：00

資料請求受付：10：00～17：15 後日渡し複写受付：10：00～17：45

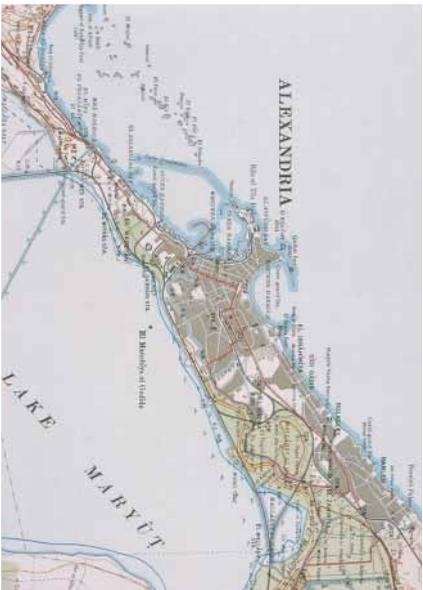
セルフ複写受付：10：00～17：30

休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日（第3水曜日）、特別整理期間

2004年	9月	日	月	火	水	木	金	土	10月	日	月	火	水	木	金	土	
						1	2	3	4							1	2
●	休館日	5	6	7	8	9	10	11		3	4	5	6	7	8	9	
□	資料整理 休館日	12	13	14	15	16	17	18		10	11	12	13	14	15	16	
		19	20	21	22	23	24	25		17	18	19	20	21	22	23	
		26	27	28	29	30				24	25	26	27	28	29	30	
										31							

稀本茶札二礼

(438)



(部分)

Alexandria 1 : 100,000



Alexandria 1 : 100,000

2002年10月、エジプト第2の近代都市アレクサンドリア（アラビア語：al-Iskandariya）の地に、古代世界最大の規模を誇ったアレクサンドリア図書館が、アレクサンドリア文書館（Bibliotheca Alexandria）として再び甦った。これにちなみ、歴史に彩られたアレクサンドリアの1枚の地図を紹介する。

アフリカ諸国の近代的な地図作成事業は、この大陸がかつて植民地であったことを反映し、各国の独立後においても、旧宗主国に依存する場合が多い。そのようななかで、エジプトは1882年、アレクサンドリアがイギリス艦隊によって陥落した後、イギリスの軍事占領が進み、植民地と化してゆく。しかし自国の機関による地図作成事業は、他のアフリカ諸国に比して古くから開始された。この地図を作成した The Survey of Egypt は、現在の国家機関 the Egyptian Survey Authority=ESA の前身で、1898年にエジプト公共事業省内に設立された（1905年 財務省に移り、1919年 The Survey Department から The Survey of Egypt に改称）。設立当初は長官以下、技術者の多くがイギリス人であるが、この地図が出版された頃から長官、技術補佐官等にアラブ系と思われる名前が見える。この機関は、当初地籍図測量を目的として設立され、まずナイル河流域の地籍図・地形図を作成し、第一次世界大戦中はイギリス軍に多くの地図とスタッフを提供した。1920年代以降は近代的土地登記法への変革に伴い、測量方法の改善や、砂漠の測量も進められた。

ここに紹介した地図は1926年以前作成の 1:50000 シリーズの地図を基に、1930年に修正した美しい多色刷りの地形図である。凡例は英語とアラビア語、地名はアラビア語のアルファベット表記と英語で、耕作地を示す彩色がされている。

第一次世界大戦後、中東の覇権問題に直面するイギリス勢力下で、エジプトのこのような彩色地図がどの程度頒布されたかは不明である。当館ではこのほか、1920年代～30年代に刊行されたカイロ、ロゼッタ等のエジプトの彩色地図を所蔵している。

Alexandria 1 : 100,000 / Survey of Egypt.

Provisional issue. First ed. in 1926. Rep. with correction in 1930.

44×62cm（用紙52×70cm）

1:000,000 地形図92/48

<当館請求記号 YG1-E2-10-92-48>

さいとう ひさ子
(齋藤 ひさ子)

東京本館新装開館後の館内利用サービスガイド

はじめに

本誌五一八号(二〇〇四年五月)では、東京本館新装開館と新しい館内利用サービスの概要をお知らせしました。今回は、本年一〇月以降の東京本館のサービスの改善点と具体的な利用方法についてお知らせします。

一 おもな改善点

館内での資料閲覧は、NDL・OPAC(国立国会図書館蔵書検索・申込システム)で資料を特定した後、請求票に必要な事項を記入して、各カウンターに提出していただいていたが、一〇月からは大部分の資料についてOPAC端末から直接申込みができるようになります。申込み時に、当該資料の所在情報や利用状況も確認できます。

また、ご自分の申込みの状況をNDL・OPACや到着案内モニタで確認することができます。

二 館内利用カード

東京本館の入館時に「館内利用カード」を発行します。利用カードは、資料の検索・請求・受取り・返却・複写申込みなどで使用します。退館時まで、なくさないようにご注意ください。

三 利用者登録

事前に利用者登録をしておく、登録時に交付する「登録利用者カード」とパスワードの入力だけで館内利用カードを発行でき、入館時の手続きが簡単になります。事前の登録をお勧めします。



四 館内利用カード発行と入退館

東京本館の出入口は、利用者登録をした方の出入口（本館）と利用者登録をしていない方の出入口（新館）に分かれます。館内利用カード発行機（写真1）でカードを発行し、ゲートでカードをかざして入館します（写真2）。退館時には、ゲートでカードが回収されます（写真3）。



写真2



写真3



写真1

五 資料の検索から申込みまで

OPAC端末（写真4）は、目録ホール・専門室にあります。カードリーダーに館内利用カードをセットし（写真5）、検索してください。NDL・OPACでは、当館が所蔵しているほとんどの資料が検索できます。利用したい資料が見つかったら、引き続き利用申込みをしてください。申込み時に、資料の受取り場所が確認できます。一部の専門室資料については、専門室カウンターでお申込みください。検索の仕方がわからないときは、目録ホールの案内員にお気軽にお尋ねください。

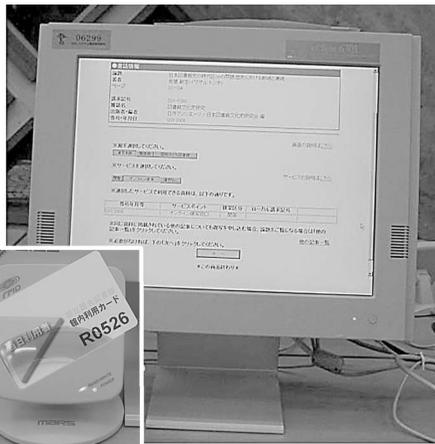


写真4



写真5

六 到着と受取り

図書カウンター・雑誌カウンターの前や、閲覧室・専門室にある到着案内モニター(写真6)、または、NDL・OPACの到着・発送情報画面(写真7)で資料の到着が確認できます。

案内されているカウンターで資料を受け取り、閲覧室でご利用ください。

図書資料 到着案内									
COME TO COLLECT									
(1/5) 7月12日 13									
E0109	E0254	E0343	E0391	E0424	E0433	E051			
E0576	E0661	E0707	E0788	E0863	E0924	E096			
E1139	E1117	E1212	E1386	E1443	E1472	E153			
E1631	E1677	E1746	E1799	E1814	E1862	E191			
E1945	E1978	R0027	R0137	R0173	R0223	R024			
R0277	R0301	R0317	R0362	R0397	R0438	R044			

写真 6



写真 7

七 複写申込み

複写を申し込むときは、カウンター複写用端末(写真8)で、申込票の作成をします。館内利用カードをセットすると、ご利用中の資料の一覧が表示されるので、複写したい資料を選びます。開架資料などで、一覧にない資料の申込みも可能です。申込票には、氏名・申込資料名等が印刷されるので、複写希望ページなどの必要事項を追記し、しおりを挟み込み、資料とともに、複写カウンターにお持ちください。複写のできあがり状況は到着案内モニターで確認できます。

専門室の資料を複写するときは、それぞれの案内に従って、資料の持ち出し手続きをしてください。



写真 8

八 オンライン複写

新装開館後の新しいサービスに、オンライン複写があります。「雑誌記事索引」収録論文について、論文単位で、複写を申し込み、資料の請求・受取りをせずに、直接複写製品を受け取ることができます。オンライン複写は、NDL・OPACの「雑誌記事索引の検索／申込み」画面(下図)から申し込めます。

<p>※館を選択してください。</p> <p><input type="radio"/> 東京本館 <input type="radio"/> 関西館 <input type="radio"/> 国際子ども図書館</p>	<p>画面の説明はこちら</p>								
<p>※サービスを選択してください。</p> <p><input type="radio"/> 簡易 <input type="radio"/> オンライン複写 <input type="radio"/> 遠隔なし</p>	<p>サービスの説明はこちら</p>								
<p>※選択したサービスで利用できる資料は、以下の通りです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>巻号年月等</th> <th>サービスポイント</th> <th>排架区分</th> <th>ローカル請求記号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>29(5) (巻号 356) 2001.5</td> <td>オンライン複写窓口</td> <td>開架</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		巻号年月等	サービスポイント	排架区分	ローカル請求記号	29(5) (巻号 356) 2001.5	オンライン複写窓口	開架	
巻号年月等	サービスポイント	排架区分	ローカル請求記号						
29(5) (巻号 356) 2001.5	オンライン複写窓口	開架							
<p>※同じ資料に掲載されている他の記事についても複写を申し込み込む場合、論題をご覧になる場合は「他の記事一覧」をクリックしてください。</p> <p>他の記事一覧</p>									
<p>※必要があれば、下の「次へ」をクリックしてください。</p> <p style="text-align: center;">次へ</p>									

九 新装開館に向けて

国立国会図書館では、サービスを向上させるために、国際子ども図書館の全面開館、関西館の開館、遠隔利用サービスの充実に取り組んでまいりました。東京本館では、平成一五年度からの専門室の再配置・改修工事を経て、平成一六年一〇月一日の新装開館まで、あと一か月ほどとなりました。この期間、工事・資料室の移転・システム導入準備のための臨時休館などで、ご迷惑をおかけしてきました。引き続き、新装開館までは、準備作業のためご不便をおかけいたします。また、新装開館直前には、次の日程で臨時休館を予定しております。

● 東京本館臨時休館日

九月二三日、二四日、二七、三〇日

新装開館後は、これまでもお知らせしてきたとおり、開館日・開館時間を拡大し(二二頁参照)、よりいっそうのサービス向上に努めてまいります。利用者の皆様には、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

(資料提供部利用者サービス企画課)

新指定貴重書および準貴重書について

― 第三五回貴重書等指定委員会 ―

平成一六年四月一四日、第三五回貴重書等指定委員会を開催し、国立国会図書館貴重書指定基準、国立国会図書館準貴重書等指定基準にもとづき、新たな貴重書および準貴重書を指定した。貴重書に指定した資料は和漢書七点、洋書七点、準貴重書に指定した資料は、和漢書一点、幕末から明治初期の新聞・雑誌九点、洋書一点である。この結果、平成一六年四月現在、当館が指定した資料の累計は、貴重書一、一九五点、準貴重書七五九点となった。以下に、新指定資料について紹介する。

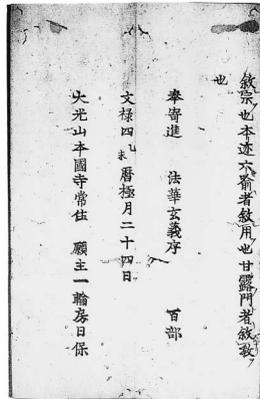
なお、和漢書の部は五頁、新聞・雑誌の部は一頁、洋書の部は一五頁から始まる。

〈和漢書の部〉

I 貴重書

- 1 法華玄義序（ほっけげんぎじょ） 一帖
文禄四年（一五九五）刊 古活字版
灌頂述 書名は尾題による 巻首題「法華
私記縁起」書外題「法華玄義序」刊記「奉
を貼継ぎ後に印刷
- 寄進 法華玄義序 百部／文禄四乙未曆極月
二十四日／大光山本國寺常住 願主一輪房日
保」大きき二七・〇×八・七cm 折帖 丹
表紙原裝 本文料紙楮 無辺無界 字高約
一九・〇cm 每半折五行一七字 漢字活字
全四紙（第一紙二六・八cm、第二紙四三・〇
cm、第三紙四四・九cm、第四紙三四・〇cm）
本書は隋の智顛（五三八〜九七）が開皇
一三年（五九三）に荊州玉泉寺にておこなっ
た法華經の講説を、弟子の灌頂（五六一〜
六三二）が記述した『法華玄義』一〇巻の序
文のみを一帖とし、刊行したものである。
巻末に「奉寄進 法華玄義序 百部／文禄
四乙未曆極月二十四日／大光山本國寺常住
願主一輪房日保」と刊記があり、大光山本國

(写真1)



寺にて、文禄四年（一五九五）一二月に日蓮宗の僧日保（にっぽう）により、百部印刷刊行されたことが知られる。

（写真1）〈請求記号 WA7-244〉

2 妙法蓮華經 八卷八帖（慶長六年（一六〇一）刊 古活字版）

書名は巻首題による 第一帖のみ墨書題簽あり 刊記なし 大きさと四・〇×九・一cm 一紙幅約一九・五cm 折帖 芥子色綴子織雲 龍鳳凰唐草模様表紙 第一帖表紙上部、第三

帖裏表紙下部、第七帖裏表紙下部は綠色絹布で補修 本文料紙楮 無辺無界 字高約一九・三cm 每半折五行一七字 漢字活字 印刷後

料紙貼りあわせ 第五・八帖巻頭喉墨書「妙舜尼 妙忍尼 妙金尼吊（弔の異体字）也」

第八帖巻末墨書「奉摺寫經王全部為 妙舜尼 妙忍尼／妙金尼 右息女三人出界入理也

／慶長六龍集辛丑秋八月日施主大原忠（管）〔日〕源（敬）〔白〕 本文に朱書および墨書

有り 各巻尾題下に墨書花押有り 各帖小口朱書「一」〜「八」印記なし

法華経は平安末期以来何度も刊行されたが、すべて版木を用いて摺刷されている。指定本は木活字を用いて摺刷されたものである。刊

記はないが、第八巻巻末に江戸初期とみられる書風で「奉摺寫經王全部 為妙舜尼 妙忍

尼／妙金尼 右息女三人出界入理也／慶長六龍集辛丑秋八月日」と慶長六年（一六〇一）

の墨書識語があることから、慶長六年頃、妙舜、妙忍、妙金の三人の女性の菩提を弔うた

めに、発願、摺写されたものと思われる。各巻末に墨書花押があるが、花押の人物は不明。

刊行地は京の日蓮宗の寺院であろう。伝存該書のみ。

〈請求記号 WA7-245〉

3 新刊素問入式運氣論奥（しんかんそもんにゅうしきうんきろんおう） 三巻一冊 慶長一六年（一六一一）梅壽刊 古活字版

（宋）劉温舒撰 書名は上巻巻首題による 目録題、序題、上巻巻首・中巻巻首・下巻巻首題、下巻尾題「素問入式運氣論奥」 版心

「運氣」 表紙左肩題簽墨書「運氣論 全」 刊記「慶長十六辛亥初冬吉辰梅壽重刊」 大

きさ二八・七×二〇・一cm 四つ目袋綴じ 栗皮色原表紙 本文料紙楮 四周子持枠 有

界 郭内縦約一七・五cm 每半葉一〇行 每行一八字 上下黒口花魚尾 漢字活字 陰刻

活字 図は整版 墨書「鰲峰種徳書堂重刻」（上巻序丁裏） 墨書訓点および朱書入れあり

印記なし

本書は北宋の元符二年（一〇九九）に劉温舒が著したもので、古代の医書「黄帝内経素問」中の「運氣」を論じた「運氣七篇」と呼

ばれる部分の解説書である。宋代にはすでに刊行されていたが、伝存する版本は元版から。

わが国には室町時代に明版が渡来、以後盛んに読まれた。古活字版は慶長一六年、一九年、

元和二年、寛永二年と何度も刊行された。整版も寛永二年から正徳年間までに一〇種以上が数えられる。指定本は慶長一六年刊行の古活字版で、最初の和刻本でもある。刊行者梅壽は慶長後半から寛永三年頃にかけて明代医書の翻印をおこなっている人物。他に同版は見つからない。大東急記念文庫本および東洋文庫本等は、版式は同一だが使用活字が異なる異版である。

〈請求記号 WAT-246〉

4 長恨歌傳 附 長恨歌・琵琶行・野馬臺
 (ちようこんかでん ふちようこんかびわこう やばだい) 一冊 (元和二年(一六二六)頃) 刊 古活字版

「長恨歌傳」陳鴻撰 「長恨歌」琵琶行「白楽天(作)」「野馬臺」梁寶誌和尚(作)「一丁表巻首題」「長恨歌傳」七丁裏巻首題「長恨歌」一五丁裏尾題「琵琶行」二二丁裏尾題「野馬臺」版心「長恨歌」刊記なし
 大きさ二六・五×一九・二cm 四つ目袋綴
 じ 茶色原表紙 本文料紙楮 四周双辺 有界 郭内縦約二一・二cm 每半葉八行 每行一七字 漢字活字 註小字双行 上下黒口花



(写真2)

魚尾 一五丁裏墨書「右長恨歌琵琶引者環翠軒自筆令ノ謄寫者也為後證加奥書 而已」裏表紙見返し墨書「和洲吉野川上村ノ字多帝第三十三世六角氏ノ源孝政(花押)」本文に墨書訓点書入あり 印記「高木家蔵」「金合文庫」「小林蔵書」「月明荘」
 白居易(七七二〜八四六)の「長恨歌」は平安時代以来、貴族や武将などの中で非常に好まれた。わが国最初の刊行は古活字版である。古活字版は一冊に陳鴻の序文「長恨歌傳」と、白楽天の「長恨歌」、「琵琶引(行)」、梁寶誌和尚とされる「野馬臺」と「野馬臺之起」、「野馬臺詩序」が合刻されている。古活字版には六種類(異植字版も含めると八種類)以上の版があるが、指定本はそのうちの第四種本。当館ではすでに第六種本の異植字版(請求記号 WAT-198)を所蔵する。指定本は無刊記だが、表紙裏貼りに元和二年に東福寺で開版された『古今歴史標題註釈十九史略通考』の反故一枚が使用されていることから、同時期の刊行と推定される。

(写真2) 〈請求記号 WAT-247〉

5 保曆間記(ほうりやくかんき) 二巻一

冊 (二元和・寛永年間(一六一五〜四四)) 小瀬道甫刊 古活字版

書名は上巻巻首題による 上巻尾題・下巻

巻首題「保暦間記」 版心「保暦間記」「保

暦間記」 刊記「小瀬道甫刊」 大きさと七・

八×一九・八cm 四つ目袋綴じ 栗皮色後補

表紙 書題簽「保暦間記」 本文料紙楮 四

周双辺 無界 郭内二・三×一六・五cm

每半葉一二行 毎行二四字内外 上下黒口花

魚尾(上巻第三丁は花魚尾無し) 漢字片假

名交り 注小字双行 漢字活字 片仮名活字

○印活字 上欄に章段見出し付植 下巻末

朱書識語「大日本史料所引保暦間記、与此本

如有異同、異本?、猶可考/明治三十四年十

一月一日 梅屋林史」 裏表紙見返し墨書

「享保拾七子歳五月十一日 関川平四郎

〔黒印〕〈関川/松前/江指〉」 印記「尚古

齋」「甞雨珍藏」「子孫保之」「東西書屋/関

場氏所蔵之印」「忠孝吾家之宝/関場氏所蔵

/「経史吾家之田」「金台文庫」「小林蔵書」

「吾唯知足」「名忠武/字士挙/號樸屋」「家

在鴨/邨暗香/躑躅中」「月明荘」

保元の乱(一一五六)の後白河天皇より、

南北朝時代暦応年間(一二三三〜四二)の後



(写真3)

醍醐天皇崩御まで約一八〇年間の歴史書である。古活字版『保暦間記』には一巻本と二巻本があるが、指定本は二巻本。内題の下に「小瀬道甫刊」と記載がある。小瀬道甫は江戸初期の儒医・小瀬甫庵(一五六四〜一六四〇)と同一人物ともいわれるが、経歴等の詳細は未詳。刊行時期は、慶長期刊行とされる一巻本の後であることと、版式の様子などから、元和・寛永頃と思われる。同版は大東急記念文庫に所蔵される。

(写真3)〈請求記号 WA7-248〉

6 観心略要集(かんじんりやくようしゅう)

一巻一冊 寛永三(一六一二)刊 古活字版

源信撰 書名は内題による 序題、尾題共に内題に同じ 版心書名「略要集」「畧要集」

「要集」 刊記「尔時寛永内寅曆 林鐘吉晨開板」 自序「観心略要集/夫観法者諸佛之

必要衆教之肝心也…(略) …于時強圉之載夏

五月序」 大きさと二八・五×二〇・四cm 五

つ目袋綴じ 薄茶色表紙 本文料紙楮 四周

单辺 無界 郭内二・三×一六・四cm 每

半葉一〇行 毎行一〇字内外 上下黒口花魚

魚尾(上巻第三丁は花魚尾無し) 漢字片假

尾 漢字活字 表紙裏墨書「觀心略要集／

〈請求記号 WAT-249〉

觀心略要集」扉表墨書「觀心略要集／觀心

略要集／天台沙門源信選」扉裏墨書「比叡

靈峯／觀心略要集／天台沙門源信選」卷末

墨書「法兄玄與律師求之 宿阿脩補之／承

應元年冬十月日」後表紙裏墨書「文政十三

年寅七月二日より七日書／天台沙門義真諱

誦之者也／難有、／南無阿みだ佛」印記

あり「播州斑鳩／佛餉院藏」本文に朱および墨書

あり

本書は寛仁元年（一〇一七）五月の自序が

あることから、天台宗の僧源信（九四二～

一〇一七）の著作とされる。源信は比叡山の

横川に住した。『往生要集』の著者として知

られる。全体を十章に分け、『華嚴経』『浄名

経』『摩訶止観』などの經典を引用して、「心」

を「観」ずることにより極樂に往生すると説

く。古活字版『觀心略要集』に刊行地は記さ

れないが、比叡山あるいはその周辺で刊行さ

れたのであろう。指定本は印記および書き入

れから、播磨国（兵庫県）揖保郡にある古刹

斑鳩寺の塔頭佛餉院に伝来したもので、代々

の学僧が読誦、学んだ本であることが知られ

る。

7 謗供受不受論記（ぼうぐじゅふじゅろん
き）一冊（寛永八年（一六三二））刊 古
活字版

書名は目録題による 扉および小口墨書題

「論記 全」版心「論記一（五十七）」

帙題簽「日蓮宗／謗施受不受論記／寛永八年

刊／古活字版」刊記なし 卷末奥書「夫仁

王治世垂教：寛永八年歲次辛未六月下旬日

〔枕〕誌」大きき二六・二×一七・八cm 四

つ目袋綴じ 栗皮色外表紙 本文料紙楮 無

辺 無界 字高約二〇・〇cm 每半葉八行

毎行一八字 漢字活字 漢字小活字 片仮名

小活字 上下白口花魚尾 卷末墨書「主／慈

雲院日普」前表紙見返し墨書「如意山大仙

寺什物」後表紙見返し墨書「本山大仙寺什

物」扉墨書「日明之」「問答」本文に墨お

よび朱書入れあり 印記なし 第一、五、

一六丁補写

寛永七年（一六三〇）二月、幕府は江戸城

にて不受不施派の池上本門寺の日樹（一五七四

～一六三二）等と、この説に反対する身延山

久遠寺日暹（一五八六～一六四八）等を問答

対決させた。これを俗に「身池対論」と呼ぶ。

本書はこの時の顛末を不受不施派側で記録し

たもので、本文の最後に「寛永八年歲次辛未：」

とあり、「身池対論」の翌年に書かれたこと

が知られる。指定本はこれを古活字版で刊行

したものである。対論時の奉行には酒井忠勝

土井利勝、判者に天海大僧正、本光国師、林

道春などが名をつらねており、江戸初期の宗

教と政治の状況をリアルに語る貴重な資料で

ある。使用活字は著しく摩滅している。刊行

地は不明だが、京洛の日蓮宗関係の寺院と思

われる。江戸時代とみられる補写が三丁ある。

伝本はかつて安田文庫に一本あったことが

『古活字版之研究』に記されている。

〈請求記号 WAT-250〉

II 準貴重書

1 賞春芳（しょうしゅんほう）一帖 安

永六（一七七七）跋刊 拓版画

惠美長敏編 書名は扉題による 刊記なし

跋「今茲春三月之望：（中略）：安永丁酉之

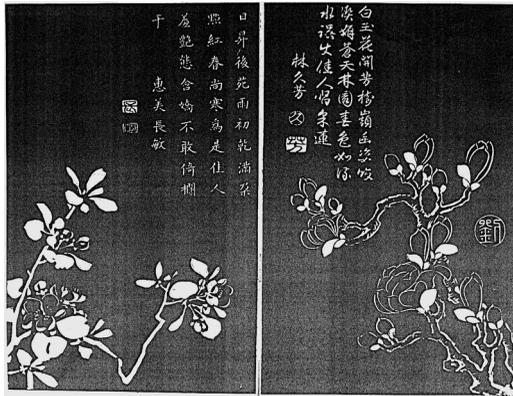
春 榛間 惠美長敏謹識／長敏」大きき

二八・三×一六・八cm 印刷面約二三・二×

一五・〇cm 帖装 全一四丁 小豆色表紙
 (表面剥離) 本文料紙は唐紙か 裏表紙見返
 しに尚書堂刊行『玄抄類摘』の広告貼付 識
 語・印記等なし

本書は、凹字正面彫りした版木を用いて拓
 本の技術で製作したものである。「拓版画」、
 「正面摺り」、「木拓摺り」などと称され、錦
 絵とは別の墨の美しさがある。本書のほかに
 は、明和四年(一七六七)刊『乗興舟』、同
 五年刊『玄圃瑤華』等が有名である。

若冲(一七一六〜一八〇〇)、池大雅
 (一七三三〜七六)、応挙(一七三三〜九五)
 など当時活躍中の京の画家が描いた春景色に、
 龍草蘆(一七一五〜九二)、江村北海
 (一七二三〜八八)、岩垣龍溪(一七七一〜
 一八〇八)などの漢学者の賛が付される。全
 二六図。巻末にある恵美長敏(えみながとし)
 の跋文によれば成立は安永丁酉(一七七七)
 の春。扉題は黄巖宗の僧・悟心元明(一七二三
 〜八五?)の書。他には、東京芸術大学図書
 館、ニューヨークパブリックライブラリー
 (スペインサコレクション)、千葉市美術館に
 所蔵が確認される。いずれも摺刷が鮮明であ
 り、これらは同時期の刊行とみられる。ただ



(写真4)

し、東京芸術大学本、スペインサコレクション
 ン本には指定本同様刊記が付されないが、千
 葉市美術館本には「天明二年壬寅冬／菱屋孫
 兵衛」の刊記がある。東京都立日比谷図書館
 加賀文庫本は江戸末期頃の後刷である。なお、
 指定本の一四丁表の画(写真4左頁)には
 「應舉」の落款が印刷されていない。

〈請求記号 WB1-17〉

2 介譜(かいふ) 一帖 文政一〇年(嘉
 永二年(一八二七〜四九) 毛利元壽自筆

書名は序題による 目録題「寫生齋海蟲介
 譜」題簽墨書「梅園介譜 全」付属帙題簽
 「寫生齋海蟲介譜 毛利梅園自筆草稿／彩色
 極精寫」自序「介譜自序(長方形陽刻朱印
 〈寫生齋〉)／夫先二怡顏齋ノ介品アリ：天保
 己亥啓蟄日 毛利江元壽并書(陽刻朱印)〈
 梅元壽〉」大きさ二八・〇×一九・六cm
 帖装楊梅色地絹布表紙 黄土色紙題簽(二九・
 四×三・〇cm) 本文料紙楮厚紙 印記「月
 明莊」「堀越」他不明二種 自筆識語「大江
 氏／梅龍園寫照(長方形陰刻朱印)〈梅龍〉」
 彩色あり

毛利元壽(もうりもとひさ 一七九八〜

一八五二) 自筆の介類図譜である。天保一〇年(一八三九)の序文、次に目次、その後には水蟲類五二品、亀鼈類五品、蛤蚌類二六六品、合計介類全三三三品とその解説、最後に付録として源氏貝五四品、歌仙貝六品が記されている。写生年代は文政一〇年から嘉永二年の約二〇年間にわたっている。毛利元壽は大江氏。旗本で博物学者であった。「梅龍園」「梅園」「寫生齋」などの号を用いた。当館では指定本のほかに『禽譜』、『魚譜』、『草木譜』、『海石榴花譜』、『菌譜』の各自筆本を所蔵する。いずれも江戸時代を代表する動植物画譜である。

1 昌平余聞東京新誌 一五五号〜一九九号 一〇、一三〜一八号 奈良 日新社 七冊
欠 一五六〜一九一、一九三〜一九七号 三 明治五年(一八七二) 八月〜明治六年(一八七三) 二月一〇日刊。 <請求記号 WB43-148-2>

2 昌平余聞東京新誌 一五五号〜一九九号 一〇、一三〜一八号 奈良 日新社 七冊
欠 一五六〜一九一、一九三〜一九七号 三 明治五年(一八七二) 八月〜明治六年(一八七三) 二月一〇日刊。 <請求記号 WB43-148-2>

3 花月新誌 三二〜一二二号 欠 四一〜四八〇、一〇五〜二〇〇号 東京 花月社 四冊 明治一〇年(一八七七) 二月〜明治一四年(一八八二) 六月刊。 <請求記号 WB42-29-2>

4 内外兵事新聞 一〜五〇号 東京 内外兵事新聞局 二冊 明治九年(一八七六) 三月一日〜明治一〇年(一八七七) 二月二七日刊。 <請求記号 WB43-64-2>

5 世益新聞 「二号附録」 東京 山口屋佐七 一冊 明治八年(一八七五) 三月刊。 <請求記号 WB43-138-4>

6 日新新聞 三〜一九号 欠 五、六、九、一〇、一三〜一八号 奈良 日新社 七冊 明治五年(一八七二) 八月〜明治六年(一八七三) 二月一〇日刊。 <請求記号 WB43-148-2>

7 京都新報 一〜三三号 京都 「西京新聞社」 三冊 明治四年(一八七二) 「五」〜「六」月刊 <請求記号 WB43-191>

8 集論新聞 二〜五号 東京 集論社 四冊 明治九年(一八七七) 五月〜六月刊。 <請求記号 WB43-192>

9 書拔新聞 一〜一五号 高崎 誠之堂 一五冊 明治六年(一八七三) 一二月〜明治七年(一八七四) 四月刊。 <請求記号 WB43-193>

1 昌平余聞東京新誌 一号〜五九号 欠 九〜三三、三五〜五八号 一冊 東京 九春社 明治九年(一八七六) 四月一六日〜明治一〇年(一八七七) 刊。 <請求記号 WB42-24-5>

2 昌平余聞東京新誌 一五五号〜一九九号 一〇、一三〜一八号 奈良 日新社 七冊
欠 一五六〜一九一、一九三〜一九七号 三 明治五年(一八七二) 八月〜明治六年(一八七三) 二月一〇日刊。 <請求記号 WB43-148-2>

3 花月新誌 三二〜一二二号 欠 四一〜四八〇、一〇五〜二〇〇号 東京 花月社 四冊 明治一〇年(一八七七) 二月〜明治一四年(一八八二) 六月刊。 <請求記号 WB42-29-2>

4 内外兵事新聞 一〜五〇号 東京 内外兵事新聞局 二冊 明治九年(一八七六) 三月一日〜明治一〇年(一八七七) 二月二七日刊。 <請求記号 WB43-64-2>

5 世益新聞 「二号附録」 東京 山口屋佐七 一冊 明治八年(一八七五) 三月刊。 <請求記号 WB43-138-4>

6 日新新聞 三〜一九号 欠 五、六、九、一〇、一三〜一八号 奈良 日新社 七冊 明治五年(一八七二) 八月〜明治六年(一八七三) 二月一〇日刊。 <請求記号 WB43-148-2>

7 京都新報 一〜三三号 京都 「西京新聞社」 三冊 明治四年(一八七二) 「五」〜「六」月刊 <請求記号 WB43-191>

8 集論新聞 二〜五号 東京 集論社 四冊 明治九年(一八七七) 五月〜六月刊。 <請求記号 WB43-192>

9 書拔新聞 一〜一五号 高崎 誠之堂 一五冊 明治六年(一八七三) 一二月〜明治七年(一八七四) 四月刊。 <請求記号 WB43-193>

* 洋書の部は一五頁から始まる。

の植物も5種収められている。図版は空想や転写によらず実際の植物を基に製作されている。植物図のほかに、著者フックスの肖像や、図版製作に携わった3人の画工(A-lbrecht Meyer、Heinrich Fullmaurer、Viet Rudolf Speckle)の肖像が見られる。

7 ピエトロ・マルティレ・ダンギエラ他原著、リチャード・イーデン訳、リチャード・ウィリス増補改訂『インド及びアジア諸国旅行史』(1577)

Anghiera, Pietro Martire d', 1456/7-1526. *The history of traualye in the West and East Indies, and other countreys* ... Imprinted at London by Richarde Iugge, 1577. [10], 466, [6] l. 4Ø (20 cm) Signatures: (.)4, [fleuron]6, A-B4, C-3O8. Cordier 71. 188×120. <WA41-87>

リチャード・イーデン(1521?-76)は翻訳家で、イギリス人としては初めて体系的に航海や探検の記録を収集・編纂したことで知られている。本書は1555年に刊行された*The decades of the newe worlde*…(スペインの旅行記をイーデンが編集・英訳したもの)を1577年にリチャード・ウィリス(fl.1558-73)が増補再版したものである。本書には中国などアジアに関する記録が含まれているが、これはウィリスが新規に追加した部分であり、初めて日本のことを英語で紹介した出版物と見なされている。出版者のRichard Jugge(c.1514-1577)は、エリザベス1世の下でroyal printerを務めた印刷業者。1548年頃から印刷業を営み、約70の書物を印刷した。

II 準貴重書

8 ジョン・グールド『アジアの鳥』(1850-83)

Gould, John, 1804-1881. *The birds of Asia*. London: Printed by Taylor and Francis, published by the author, 1850-83. 7 v. 530 col. pl. Imp.fØ (56 cm) Publied in 35 parts, of which the last three were issued after Gould's death by R. Bowdler Sharpe. 545×365. <WB31-28>

ジョン・グールドは『ヨーロッパの鳥』(1832-37)、『オーストラリアの鳥』(1840-48)のような鳥類図譜のほか『ビーグル号航海の動物学』(1838-41)等の学術書でも有名な鳥類学者・画家。図版を石版印刷に手彩色という方法で作成し、大型の図版だけで総計3,000枚に上る。『アジアの鳥』は1850年1月の第1分冊の刊行から1883年8月の第35分冊の刊行まで年1冊のペースで頒布された。全部で530種のアジアの鳥の図版と博物学的解説からなる。原画を担当したのはグールド本人のほか、W. Hart、H. C. Richter、J. Wolfといった人達であり、印刷を担当したのはHullmandel & Walton、T. Walter、Walter & Cohnという工房である。印刷部数は207部。

(貴重書等指定委員会)

* 和漢書の部、新聞・雑誌の部は、それぞれ5頁、11頁から始まる。

β4, A-X8, Y4. 160×105.

Bound with following 3 works:

1. Monardes, Nicolas, c.1493-1588. *Simplicium medicamentorum ex nouo orbe delatorum*,… Antverpiae, Ex officina Christophori Plantini, 1582. 47 p. 8Ø (18 cm) Signatures: A-C 8
2. L'écluse, Charles de, 1526-1609. … *Aliquot notae in Garciae Aromatum historiam* : … Antverpia:Ex officina Christophori Plantini, 1582. 43, [5] p. 8Ø (18 cm) Signatures: A-C8
3. Acosta, Cristobal, c.1515-c.1592. … *Aromatum et medicamentorum in Orientali India nascentium liber*… Antverpiae, Ex officina Christophori Plantini, 1582. 88 p. 8Ø (18 cm) Signatures: A-E8, F4. <WA42-88>
ヨドクス・ウィリッヒ『検尿』は中世以来、診断法として論じられてきた尿の検査をまとめたもの。Hieronymus Reusner (b.1558) が編集し注解したものが本書である。

1. 『新大陸の薬草』 2. 『芳香植物誌覚書』 3. 『東インド薬草誌』はいずれもライデン大学の植物学者レクリューズが関係したテキストをプランタンが同時に出版したものである。プランタンはレクリューズの主著『イスパニア稀産植物誌』(1576)『パンノニア・オーストリア稀産植物誌』(1583)のほか、ガルシア・ドルタ『インド薬草誌 (*Coloquios dos simples* …)』のレクリューズによるラテン語訳も出版しているが、これへの覚書という形で出されたのが2. 『芳香植物誌覚書』であり、フランシス・ドレイクから得たアメリカ西海岸の植物標本や種の情報を記している。3. 『東インド薬草誌』はアコスタの原著 *Tractado de las drogas* … (1578) をレクリューズがパラフレーズしながらラテン語訳したものである。1. 『新大陸の薬草』もレクリューズの翻訳で、原著はモナルデスの *Primera, y Segunda y tercera partes de la historiamedicinal de las cosas que se traen de nuestras Indias Occidentales* … (1574)。

6 レオンハルト・フックス『植物誌』(1542)

Fuchs, Leonhart, 1501-1566. *De historia stirpium commentarii insignes*,… Basileae, In officina Isingriniana, 1542. [28], 896, [1], [1], [2]p. fØ (38 cm) Signatures: α6, β8, A-Z6, a-z6, aa-zz6, aaa-fff6. 362×225.

<WA44-12>

レオンハルト・フックスは16世紀ドイツの医学者。1535年から没するまでチュービンゲン大学の医学教授を務めた。数多くの医学関係の著作があるが、植物学の分野でも本書によって大きな業績を残した。出版者の Michael Isingrin (1500-57) はバーゼルの印刷業者で、約80点の本を出版した。本書には約400種のドイツ原産の植物と100種の外国産の植物が掲載されている。約40種は初出でトウモロコシなどアメリカ原産

3 ザクセンのアルベルト 『比の論考』 (1487)

Albertus de Saxonia. [Tractatus proportionum.] [Venice : Andreas de Pal-

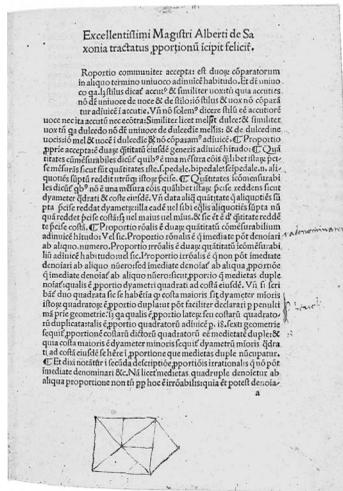
tasichis, 21 July 1487?] 10 leaves. 4

Ø (21 cm) Signatures: a6b4. Goff

A344 ; BMC V354 ; GW 790. 205×

145. Type: 109 R <WA42-86>

ザクセンのアルベルト (Albert von Sachsen, c.1316-90) は、中世のスコラ哲学者、論理学者、数学者。パリ時代の師ビュリダン (J. Buridan) のインベトゥス理論を広めたほか、T. Bradwardineの運動式を紹介した『比の論考』ほかを著した。インキュナブラとして印刷されたものとして『比の論考』のほか、*Quaestiones in Aristotelis libros de caelo et mundo* 等アリストテレスの注解書や *Sophismata* が知られている。特に『比の論考』は広く読まれた作品で、インキュナブラだけでも9点が印刷され、本書は6番目に当たる。



4 アポロニオス 『全集』 (1537)

Apollonius, of Perga. *Opera per doctissimu[m] philosophum Ioannem Baptistam*

Memum ... De Gr[ae]co in Latinum traducta & nouiter impressa.

Venetii : Per Bernardinum Bindonum, 1537. 88, [1] p. fØ (31 cm)

Signatures: a-p6 ([p6] blank) 303×208.

<WA42-87>

ペルゲのアポロニオスは前3世紀後半のギリシアの数学者。アレクサンドリアでユークリッドの後継者たちとともに学び、のちペルガモンで教えた。『円錐曲線論』(*Konikon biblia*)を書いたほか天文学の分野でも功績を残した。『円錐曲線論』は8巻からなるが、そのうちギリシア語原典が残っているのは最初の4巻のみであり、その初めてのラテン語訳が本書である。訳者 Giovanni Battista Memmo (d.1536) はヴェネツィア共和国最初の数学教授であった。

5 ヨドクス・ウィリッヒ 『検尿』 (1582)、ニコラス・モナルデス 『新大陸の葉草』

(1582)、シャルル・ドゥ・レクリュース 『芳香植物誌覚書』 (1582)、クリストバル・

アコスタ 『東インド葉草誌』 (1582)

Willich, Jodocus, 1501-1552. *Vrinarvm probationes* ... Basileae, Per Sebasti-

anvm Henricpetri, [1582] [24], 341, [1] p. 8Ø (18 cm) Signatures: a, 8,

新指定貴重書および準貴重書について

—第35回貴重書等指定委員会—

〈洋書の部〉

I 貴重書

1 リュコプロン『アレクサンドラ』(1566)

Lycophron. [*Lykophronos tou Chalkideos Alexandra.*]= *Lycophronis Chalcidensis Alexandrae, siue, Cassandrae uersiones duae*: … Basileae : Per Ioannem Oporinum, & Petrum Pernam, 1566. [16], 236, [6] p. 40 (20 cm) Signatures: [α]4 [β]4 ([β]4 blank), a-z4, A-F4, G6 (G6 blank) 190×130. 当館本はG6を欠く。 <WA42-84>

リュコプロンは前3世紀前半のギリシアの詩人で文法家。残存する作品のうち唯一全体が残っているのが『アレクサンドラ』である。同書の最初の校閲本は1513年、ヴェネツィアでAldo Manuzio (c.1450-1515)により合集として出版された。単独の本としては、ギリシア語本文(Tzetzes兄弟による注解付き)とラテン語対訳(訳者Paolo Lacisio)が1546年にバーゼルでJ. Oporinusにより出版されている。本書は16世紀に行われたラテン語訳で、W. Canterの逐語訳(ギリシア語テキストとの対訳)とラテン語による注解、およびJ. Scaligerによる散文訳から成る。

2 スエトニウス『ローマ皇帝伝』または『カエサルたちの伝記』(1574)

Suetonius Tranquillus, C. …*XII. Caesares, Theod. Pulmanni Craneburgij opera & studio emendati.* … Antverpiae : Ex officina Christophori Plantini, 1574. 2 v. in 1. 80 (18 cm) Signatures: (Libri II) Aa-Bb8, Cc2 ([Cc2] v blank), ([Libri I]) A-V8, X4, (Libri II) a-h8. 158×95. [Libri I]のA2, A3, および[h8]を欠く。 <WA42-85>

スエトニウス(c.69~c.140)はローマ帝政期の歴史家、文人。作品の大半は散逸し、ほぼ全体が伝わっているのは「ローマ皇帝伝」のみである。同書は8巻からなる伝記集で、ユリウス・カエサルからドミティアヌスに至る計12人の元首を扱う。最初の刊本は1470年にローマで刊行され、16世紀だけでも増版を含め20点ほどが出版された。本書はPoelmann Theodor編集の本文とAquilaes Estaco(d.1581)編集の注釈書(Libri II=*De illustribus grammaticis et claris rhetoribus*)の2冊組として、1574年にアントワープのプランタン社から出版された。

平成一六年度国立国会図書館長と都道府県立及び

政令指定都市立図書館長との懇談会について

平成一六年七月五日、国立国会図書館新館講堂（東京本館）において標記懇談会を開催し、全国の都道府県立および政令指定都市立図書館のうち六〇館から七〇名の参加があった。この懇談会は、昭和三四年からほぼ毎年開催され、今年で四〇回になる。



（東京都立中央図書館長）からあいさつがあった。鮎澤会長は、当館のレファレンス協同データベース実験事業に言及し、公共図書館をはじめとする全国の図書館と国立国会図書館との連携の重要性を指摘、地方公共団体はいずれも財政難だが、図書館ネットワークを活用し、力を合わせて新しいサービスを展開する必要があると述べた。

続いて、まず当館から四人が報告した。北山千代総務部司書監は「平成一五年度活動報告と今後の計画」と題し、最初に、新しい情報環境下で当館が目指すべき方向性を明らかにするものとして策定された「国立国会図書館ビジョ

ン二〇〇四」について説明した。「ビジョン二〇〇四」では、四つの重点領域（①立法補佐機能の強化、②デジタル・アーカイブの構築、③情報資源へのアクセスの向上、④協力事業の推進）を定めており、この領域ごとに重点目標を定め、評価を行う。次に、サービスおよび事業の発展に関して、インターネットを通じたサービスの発展、図書館協力、東京本館の館内利用サービスに分けて説明した。

次いで、和中幹雄総務部副部長が「国立国会図書館における電子図書館事業の今後の取り組み」と題し、今年二月に策定した「国立国会図書館電子図書館中期計画（一〇〇四）」を中心に報告した。「電子図書館中期計画」の目標は①デジタル・アーカイブの構築、②情報資源に関する情報の充実、③デジタル・アーカイブのポータル機能の三点である。それらの目標を達成するために実施または計画している各種事業の概要を説明した。

続いて、児玉史子関西館事業部図書館協力課長が「総合目録ネットワーク事業の進捗について」と題して報告した。当館と公共図書館の計八四〇館が参加する同事業（愛称ゆにかねっと）はこの四月から二四時間運用、画面の一新、オンライントレーニング機能導入など、サービスを拡大し

た。今年度中にインターネットで公開する予定である。

最後に武藤寿行関西館事業部電子図書館課長が「レファレンス協同データベース実験事業の進捗状況」と題して報告した。同事業は図書館のレファレンスサービスの記録（事例）等をデータベースとして構築し、レファレンス業務や一般利用者の情報検索に役立てることを目的としている。平成一四年度から一六年度までを実験期間として位置付け、最終年度の今年度は参加館向けに公開し、実験の評価、本格事業へ向けての提案を受け付けている。現在、一八四館が参加し、公共図書館は七八館（五三％）である。



公共図書館からは、まず、山川悦男県立長野図書館長（上段写真）が「役に立つ図書館創りをめざして―あすの未来を拓く図書館力の創造を夢見て―」と題する報告を行った。効率的で動き易い組織への改正、職員と理念を共有し、利用者へ積極的に関わっていく意識改革、資料費増額への取組みを紹介した。また、信州大学図書館とのネットワーク接続、子ども読書活動振興事業、郷土ゆかりの作家の資料や外国語資料などの特色ある資料の提供といった、図書館活性化のための各種取組みも紹介した。

次に、松井英治岡山県立図書館長（下段写真）が「新岡

山県立図書館の開館に向けて」と題する報告をした。同館はこれまで文化複合施設の一部であったが、本年四月に独立した県立図書館となり、九月に新規開館する。バリアフリーと二一世紀の情報拠点を目指した新しい館の施設、交通の要衝である岡山の特色を表した交通文化資料などの資料群の概要や、市町村への支援、図書館ネットワークの構築、「デジタル岡山大百科」などの電子図書館事業等について紹介した。多くの経費をかけて開館する県立図書館への県民の期待は大きく、それにどのように応えていくか、開館に向けての抱負を語った。



懇談は事前に当館が実施した電子図書館・研修事業・広報についてのアンケート結果を報告し、公共図書館側から寄せられた要望・意見に答える形で進行了。電子図書館サービスに関連した当館への期待、研修の充実、図書館間貸出しの冊数制限緩和などについて懇談がなされた。

閉会あいさつでは、竹内愨日本図書館協会理事長が、知識や情報の共有のため図書館同士が協力することの大切さを述べ、国立国会図書館が国内外で果たすべき役割への期待を表明した。最後は大滝則忠副館長のあいさつで終了した。

（総務部企画・協力課）

特別コレクション 「布川文庫」について

当館では、出版界で活躍し出版研究者としても知られた故・布川角左衛門氏の収集した約二万五千点のコレクション「布川文庫」を、人文総合情報室（東京本館）において一般公開しています。

※ 布川角左衛門（一九〇一―一九九六）昭和三年岩波書店入社、編集部長で定年退職後、栗田出版販売社長、筑摩書房管財人、日本出版学会会長等を歴任。昭和四九年から平成三年まで国立国会図書館の納入出版物代償金審議会会長を務めた。

コレクションの概要

布川文庫は、布川氏が出版資料館を構想して長年にわたって収集したもので、出版流通、編集、印刷、活字、製本、検閲、ジャーナリズム、著作権等、明治以降の日本の出版文化に関する文献の集大成ともいえる内容です。

特に、雑誌創刊号、書籍販売目録、出版社史等の貴重な資料を含んでいるほか、

装丁については、カバー、帯等、図書の原装をよく保持している、雑誌が製本されていない状態である等の点でも貴重なコレクションです。

これまでの経緯

当館は、昭和六二年に布川角左衛門氏と資料の寄託契約を締結し、支部上野図書館（当時）に布川文庫室を設け、出版関係者、研究者に限定して公開していました。布川氏没後の平成一〇年三月、上野図書館の改修工事に伴い、永田町の東京本館に資料を移送しました。その後資料の寄贈等の手続きを進め、平成一六年三月に当館の特別コレクションとして指定し、六月に一般公開しました。



利用方法

資料は閉架式です。人文総合情報室に備付けのリストで資料を検索し、カウンターにお申し込みください。なお、資料の閲覧には許可申請が必要となります。手続きについては、同室カウンターにお尋ねください。また、同室内の展示スペースでは、コレクションの中から選んだ雑誌等を展示しています（写真）。

（主題情報部人文課）

電子展示会「インキュナブラー西洋印刷術の黎明一」を公開

電子展示会「インキュナブラー西洋印刷術の黎明一」を公開しました。

インキュナブラという言葉はラテン語「incunabulum」の複数形「incunabula」で、「揺りかご」という意味から転じて「出生地」「初め」を意味します。本の世界では、金属活字により印刷された本で印刷年が1500年以前のをインキュナブラと呼んでおり、摇篮期本とも呼ばれます。活版印刷の創始者として世界中に知られているグーテンベルクを初めとして約1,100のインキュナブラのプリンター（印刷者）が登場しました。

当館は、「ラテン語聖書」やアリストテレスの「問題集」など15点のインキュナブラと、307タイトルのインキュナブラ零葉（インキュナブラのうちの1葉のみ）を所蔵しています。

今回の電子展示会では、整理中のものをのぞく13点のインキュナブラと、55枚の零葉を、書誌事項や解題とともに紹介します。

また、活字、紙や印刷、製本などのインキュナブラに関する様々な事項を、コラムや多くの図表を用いてわかりやすく解説しています。小事典（用語集）、年表やリンク集なども用意しました。

さらに、インキュナブラの組付けや折丁（印刷された紙をページ順になるように折る方法）を体験しながら、実際に1冊のインキュナブラを作ってみることができるペーパークラフトのコーナーも設けていますので、ぜひお試しください。



『ラテン語聖書』

印刷術が発明される以前の書物である写本は、読むためだけのものではなく、美しい装飾が施された見栄のためのものでもありました。インキュナブラは、写本と同じものを印刷により製作したものです。多くのインキュナブラには、イルミネーションと呼ばれる美しい装飾が人の手により印刷後に施されています。西洋印刷術の黎明期における美しい印刷様式とともに手作業での彩色の世界をお楽しみください。

<URL> <http://www.ndl.go.jp/incunabula/>

<問い合わせ先>

国立国会図書館関西館 事業部電子図書館課 電子情報発信係
電話 0774-98-1487（直通）

この春に第三五回「貴重書等指定委員会」が開催され、新たに二六名の資料が貴重書等に指定されました。

貴重書等指定の準備として、和洋稀観本などの各指定候補資料ごとに、古典籍課職員が中心となって書誌その他の調査資料を作成します。

新たに稀観本を購入する際は、貴重書等への指定が予想されることが多いため、購入検討の時点ですでに慎重な調査がなされています。しかし購入して資料を手元に置いてからでないといけない細かな調査もあり、委員会開催直前まで調査資料の手直しに追われます。他の機関の所蔵本と比較してみたり、押されている蔵書印の文字をどう読むのか、欠けている丁はないか、表記されている年に本当に刷られたもののかなど、思いつく限りの要素をあれこれ検証していくのです。

そして指定が決定した資料は、正式に整理を行い貴重書庫に収められ、月報に記事が載って広報されます。また、現物を損なうことな



く後世に伝えるとともに、利用の便を図るために、モノクロのマイクロフィルムに撮影します。これによって、簡便な閲覧と複写物入手が可能となり、稀観資料の研究に役立てられることとなります。また、いくつかの資料はカラーで電子化し、その画像を貴重書画像データベースとして当館ホームページ上で公開しています。

ご覧になった方から素晴らしいとお褒めの言葉をいただくこともあり、また書籍への掲載利用などの需要にも広く応えています。

貴重書に限らず古典籍資料は、長い歳月を経て人手や文庫などを巡ってきた歴史を、それぞれに持っています。そして終の住処として当館へ辿り着いたことを思うと、「ここまでよくぞ無事で」と言ってお迎えたい気分にもなります。

文化史上の宝である貴重書の、保存と利用の両立に今後も努めていく考えです。

(古典籍課 書庫之助)

常設展示のお知らせ

第三三三回 ユートピア

——どこにもない場所——

平成一六年一〇月 一日(金) から
十一月一六日(火) まで
於 本館二階第一閲覧室前(東京本館)

あなたにとってのユートピア(理想郷)はどこなところでしょうか？

ユートピアは、トマス・モアによる造語で、「どこにもない場所」を意味しますが、同時に「よい場所」という意味も含んでいるそうです。モア以前の時代から現代まで、様々なユートピアが想い描かれてきました。プラトンの『国家』にせよ、二〇世紀に書かれたデヴィストピア(反ユートピア) 小説にせよ、そこに描かれた理想郷の姿は、それぞれの時代の現実に強く影響を受けているように見えます。

今日では、ユートピアについて語られることが少なくなりました。それはどうしてなのでしょう。これまで想い描いてきた理想が実現したからなのでしょう。それとも、何かほかの理由があるのでしょうか。

今回の展示では、それぞれの時代において描かれた代表的なユートピア(デヴィストピア) 作品をご紹介します、その変遷を辿りたいと思います。

レファレンス情報システムモニター機関募集

「レファレンス情報システム」は、必要とする図書や雑誌の情報を、資料のタイトルや内容細目などの書誌情報だけでなく「目次」も対象として、より深く検索するシステムです。平成16年8月現在、約40,000冊分の書誌情報と、それに対応した目次等の情報（論文集の場合は論文タイトル、楽譜の場合は曲名）が検索可能です。

※データ内訳（平成16年8月1日現在）

分類	数量	割合
社会科学	9,161冊	22.6%
人文科学	20,413冊	50.4%
自然科学	10,395冊	25.7%
その他	523冊	1.3%
計	40,492冊	100.0%

これまで、国内の一部図書館（都道府県立図書館・政令指定都市立図書館・国立国会図書館支部図書館）を対象に試験公開を行ってきましたが、さらに広くご意見をいただき、当システムの改修、改善に役立てるため、平成16年10月1日から公開対象を広げたモニター利用を開始します。

これに先立ち、モニター利用への参加機関（全国の公共・大学・専門図書館、調査研究機関等）を募集します。募集期間は、平成16年9月17日までです。

モニター利用に必要なユーザー ID およびパスワード等は、平成16年10月1日に配布します。

募集要項および当システムの詳細については、次の URL をご覧ください。

レファレンス情報システムモニター機関募集のお知らせ

<http://refsys.ndl.go.jp/koubo.html>

問い合わせ先

国立国会図書館主題情報部参考企画課情報サービス係

E-mail : refsys@ndl.go.jp

Fax : 03-3581-2290

Tel : 03-3581-2331（内線27131）

東京本館の臨時休館等について

利用者サービス拡充のため10月から運用を予定している東京本館の新しいシステムの稼働準備、切替作業の関係で、次のとおり、臨時休館し、また、一部サービスを停止いたします。なお、関西館、国際子ども図書館では、NDL-OPAC（インターネット）サービス停止期間中、開館日でもOPAC検索・申込みが利用できません。利用者の皆様にはご不便をおかけしますが、ご了承ください。

東京本館臨時休館日

9月22日、9月24日、9月27日～30日

NDL-OPAC（インターネット）検索および申込みサービス停止

9月19日～23日

なお、NDL-OPACが停止する期間は、郵送・FAXによる複写申込み、貸出申込みについても発送が遅れます。

東京本館の新しい開館日・開館時間等について

10月以降は、次のとおり館内利用サービスを拡大します。

開館日 月曜日から土曜日（原則として、すべての土曜日に開館します。）

休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日
（毎月第3水曜日）

開館時間 月曜～金曜 9:30～19:00（2時間延長します。）

土曜 9:30～17:00

※ただし、音楽・映像資料室、古典籍資料室および憲政資料室の開室時間は17:00までです。

資料の 月曜～金曜 9:30～18:00（2時間延長します。）

請求時間 土曜 9:30～16:00

※ただし、音楽・映像資料室、人文総合情報室、古典籍資料室および憲政資料室の資料請求時間は、曜日にかかわらず16:00までです。

このほか、複写申込み時間についても、原則として2時間延長となります。詳しくは、当館ホームページ（<http://www.ndl.go.jp> - 「10月からの新しいサービスについて」 - 「東京本館新装開館と新しい館内利用サービスの概要」）をごらんください。

お知らせ

インターネットによる利用者アンケート調査へのご協力をお願い

現在、国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp>) において、利用者の皆様に対するアンケート調査を実施しています。期間は9月24日(金)までです。当館ホームページで提供している近代デジタルライブラリーや電子展示会をはじめとする電子図書館サービス、当館資料の検索・申込システムであるNDL-OPAC、NDL-OPACから申込みができる複写サービス等についてのご意見・ご要望をお寄せください。このアンケート調査は、サービス向上や業務改善に役立てるためのものです。

なお、昨年度に実施した利用者アンケート調査の結果は、本誌516号(2004年3月)および当館ホームページの「国立国会図書館について」—「利用者アンケート調査」—「平成15年度調査結果」(<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/enquete01.html>)に掲載しています。

ご協力のほど、よろしくお願いたします

遠客近客

(東京本館)

四月一日 蔡明月氏(台湾・淡江大学図書館情報学科主任)

四月一五日 ジョン・エベール氏(米国

議会図書館地理地図部長)、太田米司氏

(米国議会図書館アジア部日本課)

四月二二日 中国河南省出版局代表团

一一名

五月一九日 マーガレット・リーリイ氏

(米国・ミシガン大学法律図書館館長)、

ベアトリス・タイス氏(米国・ミシガ

ン大学法律図書館司書)

五月二二日 マノラマ・ジャファ氏(イ

ンド・国際児童図書評議会(IBBY)

インド支部事務局長、児童文学者)

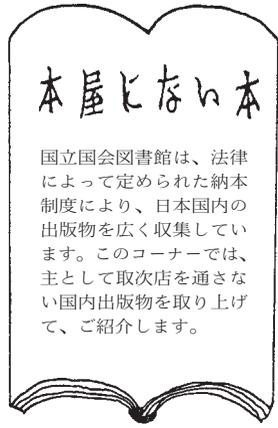
五月三二日 ペーター・シュネック夫妻

(オーストリア・国際児童図書評議会

(IBBY)会長)、ウルス・ブライテ

ンシュタイン氏(スイス・IBBY財

政担当理事、Schwabe社社長)



本屋に存の本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

伝承の美 日本旅館 RYOKAN 国

際観光旅館連盟刊 (〒100-0004 千代田区大手町二・六・一朝日東海ビル二六階) 一〇〇三・二九一頁 A4 (DK286-H8)

あなたは、「日本旅館」に泊まったことがありますか？それはどんなものか、知っていますか？

この本の発行者である国際観光旅館連盟とは、ホームページ (<http://www.ryokan.or.jp/>) によると、一定の条件を備えた「日本旅館」の経営者による「外国人観光客に対する優秀宿泊施設の提供と国際観光事業推進」を目的とした団体である。そして、本書の目的は、外国人だけでなく、日本人にも「日本旅館の持つ魅力」を再認識していただくこと、

とある。では、「日本旅館」とは、「日本旅館の持つ魅力」とは、なんだろうか。中を見てみよう。

目次の章立てを見ると、「門」「客間」「美術品」「庭」「風呂」「料理」とあり、まるで実際に「日本旅館」を訪れたかのような順序で展開されている。ページをめくっていくと、それぞれの章には美しい写真がふんだんに掲載されていて、私たちの目を楽しませてくれる。また、それらの写真は、たとえば同じ「客間」でも、「日本旅館」には伝統的な形式をふまえたさまざまなヴァリエーションが存在することを示す。美しい建物、気持ちのよさそうな温泉、美味しそうな食事などの写真は、「日本旅館の持つ魅力」を余すところなく伝えている。それぞれの写真に添えられた解説は、やや情緒的に過ぎるくらいはあるが、その写真の見所やその事物のポイントについて、概してよく説明している。

各章に関連するが、写真の解説だけでは説明しきれないいくつかの事柄については、「豆知識」として特に項を設けて紹介してある。たとえば「のれん」の項では、のれんとはどんなものであるかについての解説だけで

六月一日 ナセル・ビン・ムハンマド・

アルジュハミー氏 (サウジアラビア・

キングアブドゥルアジーズ記念館副事務

局長)、ハリード・ビン・サード・ビン・

ナセル氏 (サウジアラビア・キングア

ブドゥルアジーズ記念館マルチメディア

アーカイブ部長)

六月三日 ウィリー・ヴァンドゥワラ氏

(ベルギー・ルーヴァン・カトリック大

学文学部東方学・スラブ学科日本学専

任教授、日本資料専門家欧州協会会長)

六月一日 A P L (Association of

Professional Librarians) 会員一行

一四名

六月三〇日 北京大学国際関係学院大学

院生一一名

* * *

四〇六月にはこのほかに、大学関係

(司書課程等) 三件二十九名、その他二件

四九名の見学・参観を行った。

(関西館)

四月二七日 三重県大台町立図書館四名

なく、その歴史的背景などにも触れており、読み進めていくと、意外な発見がある。「旅館での作法」の項では、日本人にとってはあまりにも当たり前で見落としてしまいがちな基本的なマナーが示されている。巻末には、「用語解説」が付しており、本文で触れられた事項について、より簡潔に解説している。

本文は、日本語と英語が併記されており、日本人だけでなく、英語を理解する人々も同じように楽しむことができる。日本の文化にまつわる単語や文章を英語で表現してあるこの本は、日本独特の表現をどのように英語で説明するか、という点でも参考になるのではないだろうか。

あえて惜しいと思われる点を挙げるとすれば、写真の出版が掲載されていないため、具体的にどこを訪ればこの写真の風景が見られるのかわからないことだ。ここでその出版を明かすことは、その特定の旅館を宣伝することになり、「日本旅館」そのものについて説明する、という趣旨に反する、という配慮のためだろうか。

「日本旅館」とは、建築様式からインテリア、美術品、料理、作法に至るまで、日本の

伝統文化と言われるものの集大成とも言うべきもので、「日本旅館」を解説するということは、すなわち日本の文化のあれこれをまとめて解説する、ということだ。その意味では本書は程よくまとまっていて、格好の入門書と言えるだろう。

(平田 紀子)

国立国会図書館の編集・刊行物

レファレンス 第六四二号 A4 八九頁

自転車施策の課題

沖繩における米軍基地問題―その歴史的経緯と現状

地方自治体の地震防災対策―東南海・南海地震対策を中心として(現地調査報告)

〈短報〉

フランスの難民認定制度

月刊 税・送料込み 八三三円(有)

入手のお問い合わせ

(有)隣堂印刷(株) 1404東京都品川区南品川六二一〇

〒140-0003(五五七七)八二二

特に記載のないものは税込価格です。

五月一四日 京都府立総合資料館長、同館文献課長

五月二〇日 韓国・中央大学校学生六九名

五月二八日 古谷夏子氏(カナダ・リサーチ・ライブラリー・グループ・アドバイザー)

六月八日 ジェトロロビジネスライブラリー 一名

六月二一日 千葉大学附属図書館一名
六月二九日 新宮市立図書館協議会七名

* * *

四〇六月にはこのほかに、大学関係(司書課程等)五件三五名、その他一六二件一、〇三二名の見学・参観を行った。

(国際子ども図書館)

四月三日 ブランシュ・ウール氏(サン

ノゼ州立大学図書館情報学部長) 一行

五名

五月九日 三戸町立図書館長一行二名

五月二一日 静岡県立中央図書館企画振

興課長

納本制度審議会 ネットワーク系電子出版物の収集の課題に関する小委員会（第四回）の開催

平成一六年七月一六日、標題の小委員会（公文俊平小委員長）が当館（東京本館）において開催された。今回は、ネットワーク系電子出版物を国立国会図書館が収集（固定）し、閲覧等の利用に供する場合の損失補償と義務履行確保について調査審議が行われた。

まず、損失補償については、著作物であるネットワーク系電子出版物を複製して利用に供することにより、発行者等に売上減少等の損失が生じることを前提として、憲法第二九条第三項により補償が必要かどうかという点を中心に、議論された。現在の紙媒体等の出版物について館が行っている利用の態様（館内の閲覧等）の範囲であれば、経済的に軽微な損失であって、憲法上の補償が必要とされる「特別の犠牲」に当たらないと解することができるので、補償は不要と考えられるとの結論に至った。

次に、法制度に基づく収集において私人の義務が履行されない場合に、これを強制

する手段または行政罰を設けるべきかどうかについて議論された。現在審議している収集の法制度においては館による自動的収集を基本として想定している。この場合の私人の義務は固定を受忍することを内容とし、固定拒否の申出が認められる特殊なものであるので、強制手段を定める他の法制度と状況が異なること、また行政罰により強制することも適当でないことなどの理由から、履行確保の制度は設けないことが適当との結論に至った。

今後の予定としては、今年一〇月頃に開催予定の第五回小委員会において、小委員会の最終報告をまとめる予定である。

国立国会図書館総合目録ネットワークシステム説明会の開催

標記ネットワークシステムは、四月二八日に新システムへの切替えを実施したが、これに伴うシステム説明会を、七月二日（於関西館・参加者数四〇館四一名）と七月二六日（於東京本館・参加者数五四館五八名）の二回開催した。この説明会は、システムの改善点や利用方法を説明し、円滑な図書館協力活動の推進を図ることを目的として、参加館の実務担当者を対象に開催したものである。

五月二六日 荒川区立図書館一九名
五月三〇日 ベーター・シュネック氏
（オーストリア・国際児童図書評議会
（IBBY）会長） 一行四名
六月八日 静岡県立図書館一名
六月三〇日 国立教育政策研究所図書館
司書専門講座研修生六九名

* * *

四〜六月には、このほかに、学校関係
四件九八名、大学関係（司書課程等）四
件九一名、その他四二件三六二名の見学・
参観を行った。

見学・参観の申込み

詳しくは左記にお問い合わせください。

国立国会図書館資料提供部

利用者サービス企画課総括係

☎〇三（三五八二）二三三三

内線二六一一〇

国立国会図書館関西館総務課総務係

☎〇七七四（九八）一二二四（直通）

国際子ども図書館企画協力課企画広報係

☎〇三（三八二七）二〇五三内線二〇六

月例報告

説明会では、当館から、システムの改善点および利用方法について説明を行った。質疑応答では、システムを用いて電子メールで相互貸借依頼を行うことができる図書館の範囲についての確認、利用マニュアルの改訂および帳票レイアウトの工夫等についての要望があった。

なお、各日の午前中には、「総合目録ネットワークの一般公開画面について」をテーマとして、都道府県立図書館および政令指定都市立図書館中央館の実務担当者との意見交換を行った。関西会場では一三館一三名、東京会場では二〇館二二名の参加があり、画面上に掲載（公開）する情報の範囲等について、活発な意見交換が行われた。

平成一六年度図書館員のための利用ガイダンスの開催

七月二二日、関西館において、「平成一六年度図書館員のための利用ガイダンス」を開催した。このガイダンスは、各種図書館の協力業務担当者で、当館の図書館へのサービスの利用経験があまりない職員を対象に、各サービスの利用方法を説明するため、平成一四年度から毎年開催している。

今回は国内の図書館三六館から、三六名の参加があった。

当日は、当館の図書館協力業務の概要を説明した後、NDL・OPAC、図書館間貸出し、複写サービスおよびレファレンス・サービスについて、各担当者が申込手順や利用方法、利用の際の注意点等を説明した。その後、関西館の施設見学と質疑応答を行い、ガイダンスを終了した。

お知らせ

「国立国会図書館の編集・

刊行物入手案内」について

本誌二月号・八月号に添付しておりました標記タイトルの小冊子を、平成二六年から二月号のみの添付とさせていただきます。当館ホームページに掲載しているご案内は、八月にも更新しますので、新しい情報については、当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) 「刊行物」―「編集・刊行物一覧」をうかがってください。

おもな人事

経済産業技官 小紫 正樹
国立国会図書館支部経済産業省図書館長を免
ずる

経済産業技官 仲田 雄作
国立国会図書館支部経済産業省図書館長を免
ずる

以上平成十六年六月二十二日付け
国立国会図書館支部海上保安庁図書館長を免
ずる
海上保安官 齋藤 芳夫
国立国会図書館支部海上保安庁図書館長を命
ずる
海上保安官 大須賀 英郎

職員採用 ―
(配置部局)
総務部 参事 岡田 京子
事務部 伊東 祐介
収集部 司書 伊東 祐介
以上平成十六年七月一日付け

なお、展示および関連行事開催にあたっては、(財) 東京動物園協会、東京藝術大学、(財) 東洋文庫からの御指導・御協力をいただいております。



十二類巻物 (写) <請求記号 ん-186>

関連行事として、下記のものがあります。

①演奏会「藝大と遊ぼう～ゆかいな動物園～」

(東京藝術大学演奏芸術センター主催)

平成16年9月19日(日) 午後2時開演

会場：東京藝術大学奏楽堂

※問い合わせ先：東京藝術大学演奏芸術センター

TEL 03-5685-7700

②講演会「人はなぜ動物絵本を読むのか」(仮題)

平成16年11月6日(土) 午後2時から

講師：矢野智司氏(京都大学教授)

③ミニコンサート「楽器が奏でる十二支の動物たち」(仮題)

平成16年12月5日(日) 午後(時間は未定)

東京藝術大学学生有志

④講演会「日本人と十二支のしたしみ」(仮題)

平成17年1月22日(土) 午後2時から

講師：大島建彦氏(東洋大学名誉教授)

※会場は①以外は、すべて国際子ども図書館3階 ホール

本にえがかれた動物展 II — 十二支を手がかりに —

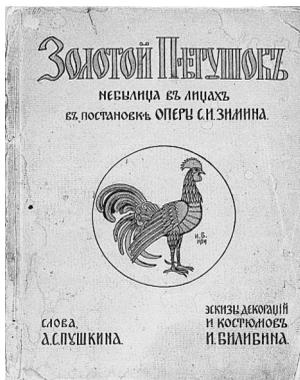
Animals in children's books II : the Chinese zodiac as keyword

開催期間：平成16年9月18日(土)～平成17年4月10日(日)

休館日：月曜日、国民の祝日・休日、年末年始(12月28日～1月4日)、資料整理休館日(毎月第3水曜日)

開催時間：午前9時30分～午後5時

会場：国際子ども図書館3階
本のミュージアム



Золотой Петушок
(金のニワトリ)
<請求記号 Y17-B2614>

平成13年に開催した「本にえがかれた動物展」は、幅広い年齢層に支持され、展示会終了後も再展示を望む声が多く寄せられました。今回の展示はこうした要望に応じて開催するものです。

昔話にも児童文学にも、多くの動物が登場します。人間と生活空間をともしする動物は親しみをもってえがかれ、馴染みのない動物は憧れの対象や脅威としてえがかれています。この違いは、人間と動物との関わり方の違いによって、次第に人々の心の中に形成されてきたものといえるでしょう。

日本やアジアの国々では、生まれ年を「十二支」の動物で表現することがごく自然に行われ、小さな子どもでも自分の干支を知っています。展示では、たくさんの動物の中から、人々の生活の中で親しまれている「十二支」の動物を取り上げました。これらの動物が、世界各国の本の中でどのように表現されているか、ご覧いただければ幸いです。

これに加えて、特別コーナー1「動物寓話の世界」では、イソップ寓話を中心に、当館所蔵の貴重な資料を展示します。特別コーナー2「動物とともに生きる」では、絶滅動物や補助犬などに関する本を紹介しています。





What's 書誌調整？

第9回 全国書誌は文化の鏡

連載9回目の今回は、全国書誌がテーマである。

全国書誌とは、「ある国で刊行されたすべての出版物を収録する書誌」のことであると、とりあえず定義しておく。

日本では、国立国会図書館が作成する書誌情報を編集して毎週刊行している『日本全国書誌』がこれにあたる。

それでは、この連載で全国書誌を取り上げる意味、すなわち全国書誌と書誌調整の関係とは何だろうか。

連載をスタートするにあたって、書誌調整という言葉の意味を「目録の作成と提供の仕組みづくり」とした。今回は、書誌調整の別の側面に注目してみたい。それは、「何らかの方法で文献の存在を把握し、その書誌情報を既知の順序で排列すること」（根本彰『文献世界の構造』）である。全国書誌とは、ある国で刊行された文献の存在を把握し、その書誌情報を何らかの順序で排列したリストであると言い換えられる。

各国が責任を持って、その国で刊行された文献の存在を把握し標準的な書誌情報を収録したリスト（各国の全国書誌）を作成することで、それぞれの国における国内書誌調整が図られる。そして、その全国書誌を国際的に流通させ利用に供することによって、世界的な書誌調整が実現できるのである。そのため多くの国で、国立図書館などが全国書誌作成機関として全国書誌を作成するという責任を負っている。また、多くの全国書誌作成機関が、法定納本制度により国内の文献を包括的に収集して、全国書誌に収録するよう努力している。日本では当館が唯一の全国書誌作成機関であり、やはり納本制度に基づいて収集を行っている。

それでも全国書誌には限界がある。先に「すべての出版物を」と書いたが、実は「すべて」など不可能なのだ。第一に、出版物のリストを作成するにあたっては、何を出版物と見なして収録するかを予め決めておく必要がある。これまでも新しい出版形態が現れては、出版物と見なせるか、全国書誌に載せるべきかについて全国書誌作成機関を悩ませてきた。収録範囲の拡大は出版技術革新との追いかっけこである。第二に、収録の対象ではあっても何らかの理由で収録されないことがある。例えば、全国書誌作成機関が入手できなかったためにその出版物の存在を把握できない、等である。

とはいえ、「すべて」をあきらめることはない。第一の問題に対しては、出版や情報流通の変化とともに出現する新たな媒体の出版物に、収集・書誌情報作成の両面で対応できるよう、工夫していく必要がある。第二の問題については、納本を促進することで、かなりのカバー率を達成することができる。

このように、苦心の末にできあがった全国書誌も、利用されなければ意味がない。世界の書誌調整に役立つためには、世界中のどこからでも、いつでも誰でも、利用できるものでありたい。そこで当館では、冊子体のほかにホームページ版『日本全国書誌』を公開している。2002年4月の公開以来多くの方々にご利用されている。掲載しているのは最新4号分だが、当館のWARP（インターネット資源選択的蓄積実験事業）を利用すれば、過去を遡ることもできる。ぜひ一度、当館ホームページ（<http://www.ndl.go.jp>）からメニューを辿り、「刊行物」－「日本全国書誌」をのぞいて見てほしい。日本の出版文化の状況を映し出す鏡が、そこにある。

（書誌部書誌調整課 しみず えつこ 清水 悦子）

国際子ども図書館

〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49

電話 03 (3827) 2053

ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>

国際子ども図書館は、国立国会図書館の支部図書館として内外の児童書とその関連資料に関する図書館サービスを国際的な連携のもとに行います。

館内利用サービス

利用できる人 誰でも利用できます（ただし資料室は18歳以上）。

資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。

サービス時間 9:30～17:00

休館日 月曜日、国民の祝日・休日（5月5日こどもの日は除く）、年末年始（12月28日～1月4日）、資料整理休館日（毎月第3水曜日）

休室日 休館日以外に次の日が休室となります。

2階第1・2資料室：日曜日

3階本のミュージアム：展示会準備期間

支部東洋文庫

〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-21

電話 03 (3942) 0122（代表）

東洋学の発展を目的とする専門図書館。

アジア全般にわたる資料・研究書を所蔵しています。

国立国会図書館月報

平成16年8月号（No.521）

発行所	国立国会図書館	平成16年8月20日発行	定価231円 (税込、送料別)
編集 責任者	塚本 孝	印刷所 発売元	有隣堂印刷株式会社
〒100-8924	東京都千代田区永田町一丁目10番1号 電話 03 (3581) 2331 (代表) FAX 03 (3597) 5617 E-mail geppo@ndl.go.jp	〒140-0004	東京都品川区南品川六丁目2番10号 電話 03 (5479) 8721 (代表) FAX 03 (5479) 8720 E-mail cap15650@pop01.odn.ne.jp

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜き差しして転載される場合には、事前に当館総務部総務課に連絡してください。本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp> — 「刊行物」 — 「国立国会図書館月報」) でご覧いただけます。

表紙 中性紙使用

本文 中性再生紙使用

NATIONAL DIET LIBRARY MONTHLY BULLETIN

No. 521 August 2004

CONTENTS

Alexandria 1:100,000 (Random notes on rare books, 438)	
New service procedures for on-site users at the Tokyo Main Library after the completion of its remodeling in October 2004	1
Materials recently designated as rare and semi-rare books	
—Report of the 35 th committee on the designation of rare books—.....	5
Japanese and Chinese Books	5
Newspapers and Magazines	11
Western Books	15
Conference with directors of prefectural and major municipal libraries in fiscal 2004	16
Special Collection "Nunokawa Collection"	18
<Announcement>	
Digital exhibition "Incunabula —Dawn of Western Printing—" now available on the NDL website	19
Tidbits of information on NDL	20
Announcement of regular exhibition	20
<Announcement>	
Call for participating libraries as test users of the Reference Information System	21
Temporary Closing of the Tokyo Main Library	22
Tokyo Main Library's New Calendar — opening hours and library holidays.....	22
Call for participation in the user questionnaire survey via the Internet	23
Visitors to NDL	23
Books not commercially available	24
Publications from NDL	25
NDL news	26
<Announcement>	
Guide to available NDL publications.....	27
Monthly official report	27
International Library of Children's Literature page	29
What's bibliographic control? (9) National bibliographies are the mirrors of the nation's culture	30

NATIONAL DIET LIBRARY
Tokyo